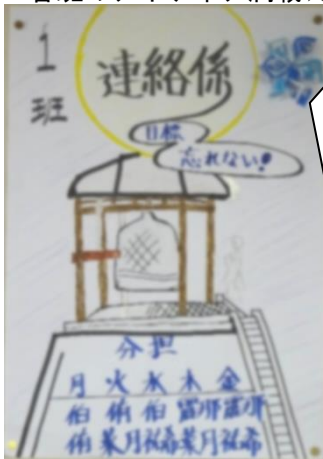


ハーモニー

平成 30 年 11 月 16 日
 新発田市立七葉中学校
 3 年 1 組学級だより No. 24
 文責：安達 智美

第 5 回班ポスターコンテスト！！～テーマ「冬」～

この前「秋」の班ポスターが完成したと思ったら、もう「冬」の班ポスターに模様替え。今回の作品も各班のアイデア満載☆大賞は次号に掲載！



年末年始の「除夜の鐘」。大きな月の元、今まさに鐘をつこうとしているお坊さんも描かれています。



クリスマスの雰囲気たっぷり！サンタクロースのヒゲに分担を書く工夫がすばらしい！



赤と白の画用紙を使い、マイクを描くことで、年末の紅白歌合戦だと分かる素晴らしさ♪



大きな雪だるまがインパクト大！眉毛と口は折り紙を巻いて立体に！金と銀の折り紙が美しいです☆



画用紙を青にしたことで、オラフと白で書かれた文字が映えて見やすいですね。

期末テストに向けてラストスパート！

期末テストまで残り 3 日！ワークの量に苦戦しながらも、必至に取り組んでいる様子も見られます。今まで以上に家庭学習に力を入れている人も多いのではないのでしょうか。あらゆる面で、テストに向けての「本気」が見られています。

テスト前、最後の休日。いつも以上に時間があるからこそ、ついつい余裕が出てしまいがちです。しかし、**休日こそ計画をしっかりと立てて時間を有効に使うことが大切**です！決して、テスト前日に夜遅くまで勉強をしていることがないようにしましょう！当日に脳をフル活用できるように睡眠はしっかりと！残り 3 日間、後悔のないように最後までやり抜きましょう！

日にち	最高学習時間	平均学習時間
9 日(金)	2 9 0 分	1 2 9 分
10 日(土)	5 4 0 分	1 6 8 分
11 日(日)	6 3 0 分	1 9 5 分
12 日(月)	3 6 0 分	1 5 3 分
13 日(火)	3 2 0 分	1 7 2 分
14 日(水)	3 0 0 分 (2 名)	1 7 5 分
15 日(木)	3 0 0 分 (2 名)	1 7 6 分

努力は必ず報われる

もし報われない努力があるならそれはまだ努力と呼べない

学年朝会では、2名の生徒が「テストの目標」を発表しました。

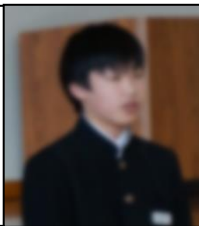
私のテストの目標は、前回のテストの結果を超えることです。前回のテストでは、国語と英語の点数が他の3教科より低かったので、今回のテストでは改善していきたいです。そのために、国語の和歌集の作られた時代や和歌に込められた作者の意図を読み取れるようにしたいです。英語では、関係代名詞の主格や目的格の違いを捉えて、英語の問題を解けるようにしたいです。

A



私のテストの目標は、前回より良い点を取ることです。私は、苦手な数学と英語を中心に勉強をしています。たとえ、その2教科の点数が悪くても、あとの3教科で良い点数が取れるようにしたいです。まだ2日間あるので、ワーク問題をやったり、何度も復習したりしたいです。成績に関わる大切なテストなので、最後までしっかり頑張りたいです。

B



同和教育「水平社創立と立ち上がった人々」

来週22日(木)の同和教育公開授業に向け、13日(火)にDVD「その時 歴史が動いた 全国水平社・差別との闘い」で全国水平社が創立されるまでを学習しました。以下は、DVDを見た後の生徒の感想です。

- ・自分の立場を大きくし、優位に立つためにあれこれ理由をつけて被差別部落の人々を見下し、それを普通だとする人間は何て嫌な生物だろうと思った。血が汚れているなど、あり得ないことを信じていることがばかばかしいと感じた。
- ・差別されていた人たちが全国にたくさんいたことを改めて感じた。差別を受けていた人たちは、心にひどい傷を負っていた。生まれた場所だけで差別を受けてしまうことはおかしいことだと改めて思った。
- ・差別は他人だけでなく、親子内で起こるということも知ることができました。同じ人間だから、絶対に血が汚れているはずもないのに、そう信じていた考え方が信じられないです。これからの人生で、差別をしてしまう貧しい心をもたずに生きていきたいです。
- ・被差別部落出身というだけで、職場を追われたり、離婚を言い渡されたりするのはひどいと思った。血がけがれているとか、精神や根性がゆがんでいるとか、あまりに酷い。
- ・同じ人間なのに「血がけがれている」「一緒に働くのも嫌だ」という差別を受けている映像を見て悲しくなりました。差別に対して、西光万吉さんは立ち上がって全国の被差別部落の人に呼びかけ、水平社を立ち上げたことがすごいと思いました。
- ・解放令が出されたにもかかわらず、行政機関が被差別部落だからと言って逮捕をしたり、起訴したりしてしまうのはどういうことなのかと思った。自分から立ち上がり、自分から誇りに思えるようになるという勇気がすごいと思いました。万吉さんの思いが新聞記者にも伝わったことがすごいと思った。
- ・「かわいそう」などと言っていることが、もう差別なんだと思った。
- ・差別をしている人たちが、差別されていた人の職などを制限したようなものなのに、「動物の血を扱っているから」などの理由で「残虐」と酷い言いがかりをつけていたと知って、とても悔しい気持ちになりました。同情や憐れみも差別をしていることに変わらないということが分かりました。
- ・西光万吉が新聞記者に言った「同情や憐れみは人を対等に見ていないということ」というような言葉が印象に残っています。西光万吉が決意しなければ、私の今もっている考えも変わっていたのかなあと思いました。
- ・被差別部落出身というだけで自由が制限されてしまうのはとても辛いことだと思った。差別は、された人の心だけでなく、した人の心も貧しくなってしまう。絶対してはいけなものだと思った。